

雪の大谷ウォークと北陸の名湯・美食を楽しむ旅



(室堂平・雪の大谷ウォーク)

「一度は見たい絶景」と言われる風景は世に様々ありますが、上の写真をご覧になったことがある方は多いと思います。立山アルペンルート[※]の室堂平、標高2,450mに位置する豪雪の高原です。写真は知っているけれど、行ったことがある方は少ないのではないのでしょうか。4月中旬から6月までの季節限定ですし、雪が無くても東京から行きづらい立山アルペンルートです。

この絶景を見に行きましょう。そして北陸の山代温泉や加賀百万石の古都、金沢を巡ります。

第1日目

お客様のお身体へのご負担がなるべくかからないように、行きは素早く空路で、帰りは当金庫の旅行では初利用となる北陸新幹線を利用します。全日空 ANA751 便を使って羽田を朝 8 時 35 分発、北陸の小松空港を目指します。小松空港には 9 時 35 分着の予定ですから飛行機に乗っているのは 1 時間、実際の飛行時間は 40 分程度の「ホンのひととき」です。機材は今のところボーイングの中型機 767-300 になる予定です。



(全日空 ボーイング767-300)



晴れていると、富士山を左側の窓から眺めながらの飛行となります。

【九谷焼 満月】



加賀と言えば九谷焼が有名です。最初に訪れるのは「九谷焼満月」という陶器店です。



これはお土産として売れ筋ナンバーワンのお急須です。この緑色の発色の美しさは九谷焼の特徴の一つです。お湯の温度を下げない工夫として背が高く作ってあったり、お湯は大きめの注ぎ口から入れて蓋を開けなくていい等、昔からの伝統だけではなく、現代の工夫も凝らされています。



九谷焼の何たるかは最初に解説してくれます。ゴルフの石川遼選手に贈呈された優勝カップになる程の美しい焼き物です。倒れても醤油が漏れない醤油差しの話は面白かったです。

九谷焼満月さんは見るものが沢山あって思いの外時間がたつのが早いです。そうこうしているうちにお昼の時間になります。

【一山楼】



昼食に利用する「一山楼」さんは、美味しい釜飯を出す地元の有名店です。雰囲気のある店構えは明治期の本物の蔵を移設しているからです。



(食材は季節により変更がある場合がございます)

昼食後は晴れている場合は「^{なたでら}那谷寺」へ、雨の場合は「^{きたまえがね}北前船の里資料館」に向かいます。

【那谷寺】



那谷寺はこの地に古くからある白山信仰に根付いています。古くは岩屋寺と呼ばれていましたが、「花山法皇」によって西国三十三カ所の那智山と谷汲山から一字ずつ貰って那谷寺と改名しました。その後衰退していましたが大きく発展させたのは、前田利常です。1642年頃までに現在の姿が形作られました。一言で言えば前田家の強力なバックアップによって発展してきたお寺ということになります。



本殿の大悲閣。自然の中を散策するような境内です。



奇岩遊仙境。浸食洞窟のある岩場で見どころです。

【北前船の里資料館】（この施設は、雨天の場合のみ訪問します。）



北前船とは、江戸時代から明治期にかけて日本海で活躍した買い積み廻船のことです。運輸ではなく船主が寄港地で売買を行う船で、これだと利益率が驚くほど高いので稼げました。加賀藩は米を大阪で売って換金しなければなりませんでしたので、日本海側を加賀から下関を回って瀬戸内海に入り大阪まで出るコースの開拓は必要でした。そして大消費地の大阪に運べば商売ができる各地の産物は沢山ありました。代表例が利尻島の良質な昆布です。このような商船集団が北前船です。



北前船の模型です。江戸時代は幕府により船に規制がありましたのでこのような形になっています。甲板や屋根が設置できない(屋根に見えるのは竹のすだれです)、主帆は1本しか立てられない、全長に制限がある等です。これで樺太と大阪を結んだのですから、お守り札を掲げて航行していたのは大いに理解できます。

【ゆのくにの森】



「ゆのくにの森」は、今夜のお宿「ゆのくに天祥」さんの経営する北陸体験センターです。広大な敷地内に民家風の建物が点在し、周辺地域の特産のお土産を買ったり、ろくろ回し体験や蒔絵の絵付け体験、オルゴール作りも楽しめます。道筋の横に小川が流れているが、なんとも癒やされます。

金沢の名産の一つ、金箔に関わる商品も沢山ありました。金箔入りの日本酒、金箔入りの化粧水、金箔クッキーや、金箔ソフトクリーム等です。また金箔を作るときに使う紙は、油分を良く吸収するので化粧の時に使う「あぶらとり紙」に最適だそうです。



古民家のように見えますが、喫茶店です。歩くのに疲れたらお立ち寄り下さい。



(ろくろ回し体験)



(蒔絵の絵付け体験)



(オルゴール作り、様々なパーツを使って組み立てます。)



(金箔ソフトクリーム)

【山代温泉 ゆのくに天祥】

一泊目のお宿は、山代温泉の「ゆのくに天祥」さんです。山代温泉は九谷焼の発祥地で、北大路魯山人や与謝野晶子等の文人にファン層が多い、大聖寺藩の藩湯です。「長寿の湯」といわれるナトリウム・カルシウム・硫黄塩・塩化物泉。「ゆのくに天祥」は当地ナンバーワンの旅館です。



こちらの旅館のキャッチフレーズは、

一泊三湯 十八ゆめぐり

「三つの大浴場に18の湯殿があり、入ろうと思えば一晩で全部を巡り歩けます」というものです。



そうは言っても、是非無理はせずにお気に入りの湯船を見つけて下さい。本当にいろいろなお風呂が楽しめます。





(食材は季節により変更がある場合がございます)

夕食はお造りやかになを中心にした和食の献立です。メニュー名は「春夏秋冬」で、季節に応じたおいしいものを食べさせてくれます。ごゆっくりおくつろぎ下さい。

第2日目

二日目は金沢に移動して、名所を巡ります。

【金沢 長町武家屋敷跡】



金沢の武家屋敷は長町というところにあります。この土堀と大野庄用水と言われる用水路が特徴です。



用水の水を引き込んで作られた庭は見応えがあります。これは大名屋敷の中で、入館することができる「野村家」の庭です。



大名屋敷付近には、和菓子店が点在しています。加賀の和菓子は京都の影響を色濃く受けていて、上品です。見ているだけで、楽しくなりますよ。



土塀に掛けられているむしろのようなものは雪よけで、加賀の冬の風物詩だそうです。

【ひがし茶屋街】



武家屋敷のあとはひがし茶屋街を見物します。加賀の花街の跡なのですが、規模は小さくても雰囲気のあるお店が集まっていて、はじめは入りにくいと思いますが、お店をのぞくと気になるものばかりです。



これは初めて見るとびっくりします。蔵の壁が金箔張りになっています。間口の狭い奥にこのような建物があるとは想像できません。金箔に関しては昼食後、日本橋にもお店を持つ専門店もご案内します。



浅草でも見るのですが、ひがし茶屋にも粋なお兄さんの人力車がありました。

【六角堂】

二日目のお昼は、六角堂さんのステーキを食べます。



この、目の前で焼いてくれるタイプのステーキハウスです。北陸は食事にお刺身が多いのでこちら辺りでステーキが良いのではないかと思います。



一番右に焼き梅干しが見えます。北陸らしいですね。食事が終わるとティールームに移ってお茶の時間になります。

【箔座】



「箔座」さんは、金箔のことなら何でもやっているお店です。日本橋の「コレド日本橋」に東京店がありますのでご存じの方もいるかもしれません。これは「黄金の茶室」です。なんだか太閤秀吉を思い出します。



お土産品の金箔の箸と箸置きです。金箔ですから思いの外リーズナブルなお値段です。お正月に使ったらいかにも似合いそうです。



金箔を正方形の同じサイズに切りそろえています。切りそろえるのにも技が必要です。

【兼六園】

金沢観光では避けて通れない「兼六園」。私も2度目でしたが、やっぱり凄い。歩いているだけで心が癒されるようです。



徽軫灯籠(ことじとうろう)は下の2本の足が琴の弦を支える象牙のパーツ、琴柱(ことじ)に似ているから付いた名前です。兼六園と言ったらこの景色ですね。



「根上がりの松」も有名です。



さて金沢城ですが、兼六園は何度も行ったことがあるよという方も、多分初めてとなるはずですよ。と言いますのは今回の東京シティの国内旅行のために、金沢城石川門の内部を特別に見学させていただけることになりました。



ご注意ください。常時公開されているわけではありませんので、内部は整備が行き届いていません。でも加賀藩にご興味のある方には面白いと思います。戦うための城だということが解ります。

【近江町市場（おうみちょういちば）】



夕食の前に近江町市場に行きます。金沢市民の台所と言われるだけあり、食料品がお安く手に入ります。市場といっても業者ではない普通の人も買うことができます。海産物や牛肉など。宅急便で送ることもできます。



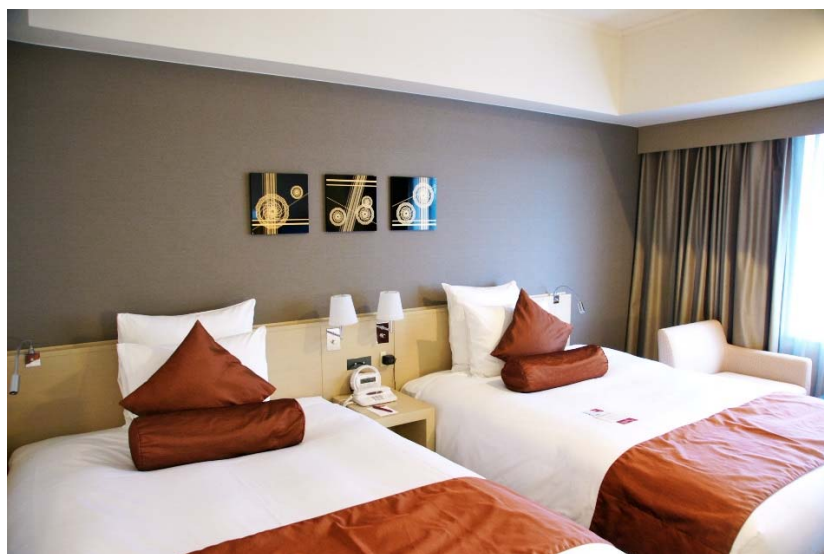
「近江町市場」は地元では「おみちよ」と呼ばれます。それだけ親しみがある商店街です。

【ANA クラウンプラザ金沢】



2日目のホテルは、金沢駅前の「アナクラウンプラザ金沢」です。

日本発の全日空ホテルが持つ信頼感と、クラウンプラザの世界水準が合体した高級ホテル。下の写真はロビーですが、贅沢な空間です。左側に見えるハープが置いてある部屋は結婚式場でした。明日の朝食は階段の向こう側にあるレストランを利用します。



【大名茶屋または金沢茶屋】

ANA クラウンプラザは町中のホテルですので、近くにおいしいお店がたくさんあります。「大名茶屋」さんや「金沢茶屋」さんは、どちらも有名店です。ご出発日によってどちらかにご案内します。



(大名茶屋の献立例、食材は季節により変更がある場合がございます)

第3日目

3日目は、いよいよ「雪の大谷ウォーク」に向かいます。バスで途中「立山アルペン村」という道の駅で30分弱のトイレ休憩を取って合計3時間の道のりです。

【雪の大谷ウォーク】



世界から観光客の集まる「雪の大谷ウォーク」。季節限定で、東京からは遠いので、なかなか見ることができません。「この景色をお見せしたい」と思ったのが、企画の出発点でした。足場が心配です、スニーカーを1足、大谷ウォークのためにお持ち下さい。



お昼は弥陀が原ホテルのビーフシチューをいただく予定です。立山アルペンルートの中でも標高が高い部分で、1,930mあります。弥陀が原の景観が美しい山のホテルです。

12時50分頃出発して八尾町に「おわら風の盆」の踊りを見に行きます。

【越中八尾^{やつお}観光会館】



富山市八尾は、街道の要所にあり薬や売薬用紙、養蚕による生糸等により富山藩の財政を支える豊かな町でした。「富山藩の御納戸」と呼ばれていたのです。古くからの石垣と街道に沿って長く伸びた町です。「おわら」とは踊りに謡われるおわら節のことで、楽しい唄で「大笑い」、昔はそれを「おわらひ」と書いたからといわれています。「風の盆」とは台風が来襲する二百十日の前後、9月1日から3日まで踊られるからだそうです。



「越中八尾観光会館」は「おわら」と春に行われる「曳山祭」に使われる曳山を展示・保存しています。



曳山は、ご覧の通り京都の祇園祭に使われるような山車、八尾では静かに牽かれるそうです。また、今回の旅行では「風の盆」の踊りを、観光会館のステージを使って貸し切り鑑賞します。



帰りは北陸新幹線「はくたか」又は「かがやき」を使います。富山駅から東京駅まで2時間と少々です。便利な時代になりましたね。お疲れ様でした。

東京シティの旅行は、「良い宿・良いお湯・良い食事」を目指して毎年開催しております。訪問地の有名店、有名旅館、有名ホテルを厳選して質の高いご旅行を提供します。皆様お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

出発日について 各店舗のご出発日は下記の通りです。

出 発 日	店 舗 名
5月15日(月)	赤羽支店、日本橋支店、高田馬場支店
5月18日(木)	蔵前支店、小山支店、砂町支店
5月21日(日)	京成小岩支店、亀有支店、東四つ木支店、玉川支店
6月6日(火)	押上支店、深川支店、菊川支店、豪徳寺支店
6月8日(木)	秋葉原支店、野方支店、浦安支店、牛込柳町支店
6月11日(日)	本店、池袋本町支店、京橋支店、志村支店
6月12日(月)	堀切支店、東王子支店、神楽坂支店、江戸川橋支店
6月14日(水)	新小岩支店、石神井支店、中野支店

*ご出発日をご都合の悪い場合は、他店舗の出発日を選ぶこともできます。

募集人員 : 400名(先着)

旅行代金 : 116,000円(2名一室の場合)

*1名一室の場合の追加料金は25,000円です。

【調査・調整】

東京シティ信用金庫 常務理事営業統轄本部長 矢野 和彦



東京シティ信用金庫 理事地域戦略統轄本部長 渡邊 正之



名鉄観光サービス（株）東京中央支店 副支店長 宮崎 康宏



名鉄観光サービス（株）東京中央支店 営業係長 東崎 英行



<http://www.shinkin.co.jp/to-city/>